

講義名称	日本教育論	担当教員名	高山 有紀
科目群	人文学 (HUM)		
科目区分等	教育 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	HUM121

授業のキーワード	公教育制度、教育問題、教育改革
授業の概要	各種教育機関（幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学）で問題化しているテーマを中心に、次代を担う子どもや若者に影響を及ぼす、学校教育の現状について学びます。
期待される学習成果（目標）	1、教育に関わる用語を理解できるようになります。 2、自身の被教育体験と社会との関係について知ることができます。 3、四年制大学編入も見据え、学校教育についての意見を持つことができます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	はじめに	授業の進め方について説明します。
2	幼児教育①	幼保一元化について学びます。
3	幼児教育②	「小1プロブレム」を取り上げ、幼稚園・保育所から小学校への接続教育について考えます。
4	小学校①	新学習指導要領を通じて、小学校教育の課題について考えます。
5	小学校②	義務教育学校の設立や中学校への接続教育など、小学校をめぐる動きについて学びます。
6	中学校①	「中1ギャップ」や不登校について学びます。
7	中学校②	いじめや学力低下問題など、中学校をめぐる様々な問題について考えます。
8	中学校③	部活動問題など、中学校をめぐる新しい動きについて考えます。
9	中間のまとめ	前講までの学習をふまえ、義務教育の意義について考えます。
10	高等学校①	中高一貫教育について考えます。
11	高等学校②	高校の多様化について学び、中等教育の意義について考えます。
12	大学・短期大学①	「大学の大量化」を受けた、大学改革の動きについて学びます。
13	大学・短期大学②	高大接続や大学入試改革について考えます。
14	大学・短期大学③	短大の歴史を振り返り、高等教育の意義について考えます。
15	まとめ②	本講での学習を総括します。

定期試験	授業で扱った教育問題をひとつ選び、レポートを作成します。
授業時間外学習	第1～5講：用語の調べなどの課題を出します（60分）。第6～10講：授業後に自分の意見をまとめます（60分）。11～15講：新聞記事を読み、今何が問題とされているかを考えます（60分）。
評価方法	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容を含む）20パーセント、試験（ミニテストとレポート）80パーセント
使用する教科書（必ず購入してください）	プリントを配布します。
参考文献	汐見俊幸『本当は怖い小学一年生』（ポプラ新書） 木村元『学校の戦後史』（岩波新書）